

6/8(水)ESD道徳 初任者研修模範授業 事後検討会

1. 学級の実態および授業者の反省

- ・ ESDの主活動である生活科と連携させた道徳授業をおこなった。
- ・ 1年生は4月当初は常に授業、常に放課という状態だった。6月にもなると時間の区別がついてきた。
- ・ まだまだ45分の集中は難しい。ひらがなも全部習っていない状態で、文章を書かせるときもある。
- ・ 今回の授業は「高め合いの場面設定」において、「アサガオになりきる」ことが実践の特徴といえる。そのための教具として、「もしもしマシーン」を使った。
- ・ 机間指導における「〇つけ法」をしながら児童の意見を把握していき、その後の意図的指名を行った。
- ・ 授業における学習規律は重要視している。例えば、「鉛筆をしまって下さい」「音読の時は教科書を持ちましょう」などきちんとするまで指導している。

2. 授業者への質問

① コの字型の机の配列についての考えを教えてください。

話している子の顔が見やすいため、学活や道徳でよくコの字型の机となる。

② 生命尊重を主題とすると空気が重くなるのですが、今日はすごく生き生きしていた。

授業で児童が意見を言った後、言った児童に「〇〇はどうですか？」と聞かせるようにしている。そうすると、他の児童は「いいです」などの反応をするようにしている。それが授業のテンポをよくしていた。ただ、気持ちを考える場面は、これはあわないので、そのような場面は発言をした児童が答えた後に、拍手をさせた。そういった気遣いをさせることで、雰囲気はよくなってくる。

③ もしもしマシーンという教具はどこで考えられたのか。

昨年度の全国教研で生活科の発表を見に行ったときに知った。もしもしマシーンを使うと、児童が楽しく植物を育てるようになることを知って、使おうと思っていた。

3. 参観者からの感想

- ・ 先生と児童達が授業を楽しんでいるという印象を受けた。日頃から児童と積極的に関わり、良好な関係作りをしておくとともに、教えるべきポイントを教材研究の段階ですっきり押さえ、児童の心を揺さぶる工夫を授業の中で取り入れていきたい。
- ・ 模範授業での板書は、写真や挿絵を貼ることで文字としての情報を減らし、目で見て簡単に捉えることのできる工夫がされていた。また、一つの文を二行以上に分ける際、区切りのよい場所で分けて板書し、読みやすい配慮がされていたのでスムーズに読めていた。
- ・ 生活科と関連させているところがよい。道徳的实践力が生活科で育つと思う。
- ・ 自分の気持ちだけで終わるのではなく、アサガオの気持ちまで考えさせていたのがよかった。さらにももしもしマシーンという工夫もあった。
- ・ 丁寧な机間指導により、意図的指名ができていた。コの字型も話し合いにはよかった。
- ・ 学習規律がきちんとあり、教師はできていない児童がいる時はしっかり待っていた。

4. 初任者への指導事項

- ・ 読み物資料の中に出てくる教師の発言確認の際に「先生は何とおっしゃいましたか」というように意識して敬語を使うことによって、正しい言葉遣いを教えている。
- ・ 1時間の流れが見える板書計画をすることで、授業がスムーズに進めやすくなる。
- ・ 授業の構造化を意識し、「まあ、いいや」という気持ちをどれだけ減らすことができるかが大切である。
- ・ 教師がなぜその学習形態を選択しているのかという意図が児童に伝わっていないことがあるので、きちんと意識させる必要がある。
- ・ 範読する際に、「先生が読むから目で追いかけてね」と伝えていたことで、読むことに意識を向けさせることができた。



【紙コップを二つ重ねたもしもしマシン】



【コの字型の授業形態】



【もしもしマシンを使って枯れたアサガオの気持ちを考える場面】

＜認識の高まり場面＞

思考法：立場を変える



【アサガオになりきってアサガオの気持ちを発表する場面】

発表法：ロールプレイ